

(参考)

名前の呼び方について

タバココナジラミ類の分類研究は確立しておらず和名や学名が混乱しています。日本では、現在三つのグループが知られています。トマト等で農業害虫として問題になっているのは、グループ2と3です。

- 1 従来から日本にいたグループ
- 2 1989年に報告されたグループ
- 3 2005年に報告されたグループ

グループ1は、もともとタバココナジラミの和名で呼ばれ、学名は *Bemisia tabaci* (Gennadius, 1889)です。日本ではスイカズラ等の雑草を食草とし、農業害虫としては認識されていませんでした。最近では「バイオタイプ JpL」と呼ばれることがあります。

グループ2は、ポインセチアや野菜の害虫として報告されましたが、当初グループ1として同定されました。そのため、しばらくの間は「タバココナジラミ(学名 *B. tabaci*)」と呼ばれていました。その後、新種として記載されたので和名はシルバーリーフコナジラミ、学名は *Bemisia argentifolii* Bellows & Perring, 1994になりました。しかし、あくまでタバココナジラミと同じ種と考える研究者もいます。その研究者にとっては、学名は *B. tabaci* です。一方、タバココナジラミを「バイオタイプ」という区分で分類する研究者もいて、このグループ2の学名を *B. tabaci* とし、区別の必要上から *B. tabaci*B-biotype と呼びました。現在日本では、この説が広く採用され、和名はタバココナジラミですが、便宜上「タバココナジラミ バイオタイプ B」と呼ばれています。

グループ3は、バイオタイプで分類する研究者によって、学名は *B. tabaci*、便宜上の名前は *B. tabaci*Q-biotype とされました。日本では、タバココナジラミ バイオタイプ B と混生しているのが発見され、現在では、「タバココナジラミ バイオタイプ Q」と呼びならわされています。

バイオタイプがすべて同一種内の系統の差であるという保障はありません。したがって、シルバーリーフコナジラミ (*B. argentifolii*) とタバココナジラミ (*B. tabaci*) が同種か別種かの学術的な決着はついていません。しかし農業においては実用上の観点からバイオタイプという区分が重要なので、日本の農業関係者の間では三つのグループをさしあたってタバココナジラミ (*B. tabaci*) としています。